

(議長)

次に、小野寺議員の発言を許可致します。

はい、どうぞ。

時間、来たら終わりますから。

はい、どうぞ。質問してください。

はい、「小野寺議員」。

「小野寺議員」

はい。それでは、質問致します。今回、2つ用意しておりますが、最初にまず、1問目。表題として町民の声吸い上げて、第2期照井町政の推進をとということであります。

今回、一般質問聞いておりましても、町長の選挙公約、そして今回の所信表明にかかる部分がありました。私も、本当に1期目の色々課題も残していたかなと、それを実現していく。また、新たに第2期ということで、町長の掲げている部分もあります。いずれにしても、第2期で推進していくこれからの議会とそれから、町長、町政とのこういう場のやり取り、これはまた、真剣にやっていかなければならないと思っております。一義的にはまず、町民の声、町民のニーズ、先程、小林議員もありましたが、そこが、大事なのかなと思っております。

この1期目、4年間、町長は、まちづくり懇話会、これで色々声を吸い上げてきたと、いう風に思います。所信表明にもありました、政策課題、テーマごと、各分野ごとの懇話会等で課題も絞られて、また、実行されてきたものもあるという風に思っております。

それで、それを踏まえて、今後の第2期照井町政。先程来、論議ありました。例えば、不幸ゼロのまちの実現。私、改めて、先程の小林議員の質問もありましたが、全部で、町長の選挙方針、選挙政策の中では、公約の中では、全部で9点挙げております。これは、町が主体的にやれる部分、それから、国、道との関係、町民との関係。多岐にわたると思っております。自殺者ゼロ、孤立死、孤独死ゼロ。それから、交通事故死ゼロ。児童虐待ゼロ。児童生徒のいじめ被害ゼロ。子供の貧困ゼロ。本当に9つ、全部挙げても、本当に住民との協力関係、所信表明にもあります、理解、協力、これが本当に必要だと私も思っております。

それで、1問目の私の質問としては、これを推進していく上で、今まで以上に町長が直接町民の声を聞く機会を、増やして頂きたいと思っております。まだまだ、私はこの4年間、町長が団体など、話し合いで色々聞いて参りました。文書等でも教えてもらっております。しかし、まだまだ本当に個々の町民の生の声、なかなか町長には、その場では言えない、それを吸い上げていく、そういう機会を作っていく。それをする事によって、先程来出されている課題、今言いました、不幸ゼロの課題、これが町民の理解、協力を得た上で進むと思っております。この点について、町長のお考えをお聞きし

たいと思います。

(議長)

はい、「町 長」。

「町 長」

小野寺議員の1問目にお答え致します。

行政の舵取りを担う上で、一番大切なことは、地域の暮らしの実態を自らの足で目で耳で確かめることということに尽きるものと考えております。

この間、政策分野ごとにテーマを定め、まちづくり懇話会の開催や地域の支え合いの仕組み作りを目的とした、まちづくりカフェへの参加をはじめ、私の時間の許す限り、町内会や自治会の総会、新年会等に足を運び、様々な方とお会いし、直接お話しを聞いてきたところでございます。

この様な中、不幸ゼロのまちの実現については、議員ご指摘のとおり、まさしく行政と町民、団体等が一体となって、その役割を明確にしながら、取り進めていかなければならないものと考えております。議員ご質問の、町民の声を聞く機会をどのようにすべきか、今後、まちづくり懇話会の在り方等も含め、検討して参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

(議長)

はい、「小野寺議員」。

「小野寺議員」

この点について、ちょっと、再質問したいんですが。先程、答弁、町長の答弁、理解致します。

それで、例えばですね、町民の声が必ずしも江差町の全体の声かどうか、それはまた別問題かと思えます。それぞれ町民の声、多岐にわたるし、またそれが本当に事実を正確に反映した声かどうかっていうのも色々あると思えます。

例えば、北の江の島構想って、何なのとか。これもよく、よくと言いますか、時々、聞きます。江光ビル跡地。あれ、どうなっているの。とか、ですね。これから、冬を迎えます。除雪、排雪、本当にこれは、近くなれば、また具体的に冬場になれば、色々声が出てきます。いずれにしても、しかし、よく聞けば、それは町広報に載っていますよ、だとか。我々、議会でもそのことを論議してこういう風になっています。それは、個々の町民との関係では、やり取りできます。

しかし、だからと言って、我々が町民と接する機会、また、町長も町民全員に1年に何度も会うと、これは物理的に不可能。それで、この1問目の質問の再質問で、違った

角度でちょっとお聞きしますが。町長の政策若しくはそれを受けて行政が押し進めてきたこと、これに対して、まだまだしっかりと、広報・広聴されていないという点ね、これやはりしっかりとやっていかなければならないと、私は思っています。さっき言った、北の江の島構想。これも議会それから町広報も何回か出てきております。江光ビルのこの間の何回かの節目、節目では、町広報にも載っております。除雪、排雪についても、何回かこれは出ておりますが、なかなか私も町広報改めてこの1年見てきましてけれども、文字がいっぱいあったりですね、もう少し工夫が必要でないのかなと思っております。そうすることによって、なかなか町民のすべての声が反映されない問題のいくつかは、改善できる。きちっと、町の行政を知らせていく。こういう課題がある、こうやって取り組んでいく。それを知らせていくという方法をやっていく必要があると思うんです。

皆さん、町広報改めて見ましたが、あの本体、本体の頁と同じ位の折り込み、折り込みがですね、本体よりも多い場合があります。だぶっている中身もあります。それから、あまりにもですね、文字が多すぎて何を言っているのか、よく分からない。じっくり読めば分かるのかもしれませんが、これでは、せっかく意図をしていることが町民に伝わらない。大事なことが抜けている、などなど。私は、まずこの再質問で、町広報の在り方ね、改めてしっかりと町民の皆様に知ってもらい、という立場で何か改善する点がないのか。改めて考えて頂きたいと思うんです。それから、文字は、今の分ですね。ペーパー。それから、ホームページ。多分、ちょっと、今どれぐらいのカウント、接続あるか分かりませんが、多分若い人は見えています。特に、子育ての関係とかですね、あと住民の暮らしの関係、制度の関係、若い人は、すぐネットで調べます。デスクトップで、ネットでみる場合もあれば、モバイルで見る場合もありますので、なかなか作る方もゆるくないかもしれませんが。その点で、本当にこれを見たいという時になかなか江差町だけに限りませんが、ホームページ、江差町のホームページ、もっともっと改善する必要がある。これは、江差に限りませんがね。そこも含めて、江差町のこの間の取り組みをしっかりと、町民の皆さんに知ってもらい。そういう取り組みをやるのが、まず、私、今後の第2期照井町政を推進する上で、大事な点の1つだろうと思うんですが、その点についてお聞きしたいと思います。

(議長)

はい。「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

小野寺議員の方から、町民の声をしっかりと聞きなさいということと、その前提として、江差町として、町の持っている情報をですね、提供する工夫をなさい、というような、ご質問だと思います。

まず、町広報ですが、限られた誌面の中でですね、どちらかというとお知らせに終始しているというのが、これまでのことでございます。庁内では、一応、広報委員会というものを組織しながら、毎月の広報のどうだったかということ、或いは来月こういう誌面作りをしていくような、意見交換。それと、文字媒体、見せ方、そういった工夫もですね、広報委員会の中で議論はされております。

江の島或いは江光ビル、それ以外の町の情報については、ホームページと広報誌しかですね、基本的には、情報ツールとして持ち合わせてございませんので、今言ったご指摘の部分は少し工夫はさせてもらいたいなど。ホームページにつきましては、この間、3年ほど前ですか、1回リニューアルをさせてもらっていますが、各所管課の施策につきましては、所管課で更新出来るというようなシステムにその際に変えております。全体のレイアウトはまちづくり推進課でございますが、その他の情報の提供につきましては、所管課がですね、適宜更新するという形になってございますので、今後、議会終わりましたらですね、その辺もう1回所管課の方に伝えて、新たな情報をですね、常にアップ出来るような体制を整えたいと思います。

(議長)

小野寺議員、2問目にいきますか。

「小野寺議員」

いや、再再質問で。

(議長)

3回目。

「小野寺議員」

簡単に。

(議長)

はい、「小野寺議員」。

「小野寺議員」

職員の少ない中で、手作りでアップしたり、町広報に創意工夫って本当にゆるくないというのもわかります。1つ、提案します。

例えばですね、我々議会に出す資料、要求された資料、それから独自に作る資料も本当に分かりやすく作られている資料がたくさんありますよね。あれの活用というのがね、非常に少ない。確かに、議会では、議会資料としては、すぐアップされて、今、江

差は議会で出された資料は、全部出てくるんですね。ですから、そこで見れば資料は見られますけれども、ただ一般町民が、議会の資料まで入るったら、ゆるくないですよ。大変ですよ。それを町民の人が、その資料をですね、うまく活用、同じ資料をうまく活用すれば、何とでもなる。ということも含めて、もっともっとね、既存の資料を分かりやすく町民に知らせる。改めて作らなくたって、いい部分なんて、たくさんあると思うんですよ。

それから、町広報だってそうだと思うんです。せっかく議会に出されている色々資料をですね、もっともっとうまくやってけば、そんなに時間取らなくたって町民に知らずことだって出来るんじゃないかなと。そういう点で、もっと創意工夫をやってもらいたいと思うんですよ。その点で、もしあれば。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

議会に提出している資料が、非常に見やすいついていうことで、チャンネルの問題だろうな、なんだろうなと1つ思います。議会のホームページに入っていくと、確実に見られるということと、1つ加工を加えると、町民向けの資料にもなりますよ、というご指摘でございますので、その辺もですね、各所管課の方とですね、詰めながらちょっと検討して参りたいと思いますので、宜しくお願い致します。

(議長)

はい、小野寺議員、これで、1問目は終わりました。

「小野寺議員」

2問目もやるんですか。

(議長)

昼から、昼から、1時から2問目をお受けします。

「小野寺議員」

はい、宜しく申し上げます。

(議長)

昼食のため、1時まで休憩致します。

(昼食休憩中)

(議長)

休憩を閉じて、再開致します。

小野寺議員の2問目から、入ります。

「小野寺議員」。

「小野寺議員」

はい、議長。

それでは、午前に引き続きまして、2問目に入りたいと思います。

1問目は、町長の2期目の執行を進める上で、いわば情報と言いますか、その観点でお聞きしました。2問目では、個別に1つお聞きしたいと思います。

町長の選挙公約の項目でいうと、大きい4番。商店街の拠点化で賑わい作りという項目があります。この中で、お買いものバスの運行というものがありますが、この、この文字だけ上げますと、何のことということになるのかもしれないので、ちょっと、改めてこの部分を読みたいと思います。愛宕町商店街下町と法華寺通り商店街上町を商業拠点化、空き店舗への新規出店や既存商店改修等への一部助成、この2つの商店街の歩行者天国化とお買いものバスの運行ということで、大きい4の①ということで、起きております。もちろんこの文字通り、町長の考え方としては、商店街の拠点化、その賑わい作りということは、私も理解します、しますが、しかしこの間、無料の買いものバスが実行されたのが、町長の代でやめてしまったと、そういう経過も私としては背景に問題意識あります。それを踏まえて、お聞きしたいと思いますが、このお買いものバスの運行について、改めて背景と説明を願いたいと思います。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

小野寺議員の2問目にお答え致します。

選挙公約にあります、お買いものバス運行について、でございますが、現在、上町、下町の商店街では、人口減少や社会情勢の変化により、賑わいが失われつつあります。

こういった現状を踏まえ、もう一度商店街に賑わいを取り戻すため、かもめ島まつりや姥神大神宮渡御祭、江差追分全国大会等の大きなイベントがない閑散月に、各商店街組合等が開催する既存のイベントに加え、商工会や商店街組合等関連団体と連携を図りながら、新たなイベント等を月替わり、週替わりで開催するなどし、商店街の賑わい創出を図ることを目指したいと考えています。このイベントへの集客手段と致しまして、

お買ものバスの運行を検討するものでございます。

江差町では、毎月何かしらのイベントが開催され、地域の皆様が定期的に商店街に足を運んで頂き、商店街と触れ合い、親しみと賑わいのある商店街づくりを目指し、お買ものバスの運行を検討しているものでございまして、いずれに致しましても、商店街や商工会との協議を今後進めていきたいと考えております。

「小野寺議員」

はい、議長。

(議長)

はい、「小野寺議員」。

「小野寺議員」

はい。ただ今、町長から答弁頂きました。前段でも触れました通り、ただ今の町長の答弁、選挙公約にもあります、上町と下町の賑わい、経済活性化、その支援策として、各町店街のイベント、開催、その開催に合わせて、イベントの集客手段としての買ものバスの検討、ということでありました。

もちろん、私自身もこの商店街の賑わい、経済活性化、それはもちろん賛成です。色々な手法で商店街に提起しながら、商店街と一緒にそれを進めていくという点、それはそれでももちろん賛成ですが、これはあくまでも商店街振興策としての買ものバスであります。利用者の町民の立場から見たら、いや買ものバスという部分を見た場合には、もちろん、今の観点と、また違った観点もあるかなと思います。

2問目は、再質問はこれどちらで答えるのかな。ちょっと観点を変えてですね、町長の公約、不幸ゼロの町の実現。それと、今の賑わいという部分の買ものバス。これちょっと重ね合わせて、改めて私としてはお聞きしたいと思うんです。つまり、不幸ゼロ、先程の項目にはありませんが、私敢えてこの部分で重ね合わせて、もう1つ。買もの難民ゼロの対策、という風に見た場合、私はこの買ものバスという点については、改めて、しっかりと検討、つまり以前やっていた買ものバス、その同じものとは言いません。もっと違った色々前回の無料買ものバスについては、検討課題、その事業についてはもちろん一定の評価も含めて廃止ということ、それはそれで承知しております。改めて、私は、買もの難民ゼロの対策として、この買ものバス、改めて再開、事業展開をやって頂きたい。まず、このことについて、町長の見解をお聞きしたいと思います。

それで、その上でですね、もう少し、この背景的なことを私2つ、お聞きしたいと思います。

この間、買もの難民に関しては、全国的にも色々過疎地域など中心に、政策、対策

が行われて、国や道でも実態調査が行われております。国の総務省の調査でも、今年の7月に結果報告出ておりますが、その実態調査、全自治体ではなくて、一部の自治体ですので、江差町がその調査の対象になったかどうか分かりませんが、国がかなりその実態調査、買いもの難民バス、買い物弱者の実態調査の中で、突っ込んだ対策を国の方でも色々出しております。この点でお聞きしたいんですけども、江差町として、この買いもの難民、その実態、どの程度調査しているんでしょうか、してないでしょうか。してないとして、その実態をどのように認識しているか、まずお聞きしたい。

それと、もう1つ、最後になります。これは、事業としてはですね、手段としては、交通手段、交通施策の中で、国土交通省が総合的な買い物難民対策も、色々な施策の1つとして出しております。江差町としても、もちろん、函バスとの関連で、交通政策を論議しておりますが、江差町でこの点、買い物難民をどのように交通施策の中で、位置付ける云々の論議がなっているのかどうか、お聞きしたいと思います。

(議長)

はい、小野寺議員。

「小野寺議員」

はい。

(議長)

一番、最初にですね。

「小野寺議員」

はい。

(議長)

今、買いもの、買いものバスというのと、難民というのを2回目で、今質問している訳ですよ。1回目の質問の時に、そのことを言って頂ければ、大変、理解出来ると思いますけれども、今、急に言われたことでもありますので、担当課長の答弁は、そのようになるかならないか、私は理解出来ませんが。

「小野寺議員」

はい。

(議長)

誰、答えるんですか、これ。

(議長)

誰ですか。誰、答えればいいの。

(議長)

はい、「まちづくり推進課長」。

「まちづくり推進課長」

まず、あの3点の質問だったと思います。1つが、買いものバスの再開をすべきだ、ということ、と買いもの難民の調査をしていますか、ということ。それと、江差町の交通政策の中で買いもの難民の対策を議論したことがありますか、というような内容だったと思います。

まず、1点目ですが、2点目、3点目後段からまず申し上げます。買いもの難民調査については、基本的には行っておりません。ただ、第5次の総合計画或いは都市計画マスタープランのアンケートでですね、地域公共交通の足の利便性の関係でですね、少しお話は聞いているというところでございます。

それと、交通政策全般の中で、買いもの難民対策を議論したことがありますかというご質問ですが、江差町地域公共交通会議というものがあまして、その場では、買い物に特化したですね、議論はされておられません。ただ、暮らしの足を守るといった観点からは、この地域全体ですね、交通網はどうあるべきかっていう議論はされた経過がございます。

それと、買い物バスの再開につきましては、私の方からちょっと答弁は控えさせて頂きたいと思います。

(議長)

はい、「副町長」。

「副町長」

ちょっと、複層的に絡んでいる質問でございましたので、ちょっと私から。

今、まちづくりの課長から言った実態調査っていうのは、これしてございません。で、1つ言えるのは、路線バスの話を少しだけ話すると、江差町的には、上ノ国、厚沢部、乙部の名前を出して悪いんですが、単線ではない、複線でそれなりに路線バスは走っている。これは、時間帯は色々ありますけども、相応にあると。問題は、いわばバス停まで行く距離であったり、そういったところでの路線バスの使い勝手のいいのか、悪いのか、こういった観点も当然あると。もう1点触れたように、今、都市マスのアンケートで、この買いもの関係の、手に触れた項目がちょっと、いくつかございます。これ

らをまた、どうとらまえるかってところがあるんですよ。いわば、自分が行きたい、例えば仮にですよ、行きたいスーパーに行けないから、不便だという風に答えるのか、距離感の問題含めてね。ですから、この難民という言葉っていうのは、何ともちょっと言い難いですが、いずれにしてもちょっと都市マスのアンケートなんかも参考にしながら、でも路線バスは確かにあるし、福祉の助成もしてございますので、これはトータルの考え方で、今すぐ買いのバスを来年度、また、再開するかどうかっていうのは、これは難しいかなと思っています。あの総合的にちょっと判断させて頂きたいと、このように思っています、はい。

(議長)

はい、「小野寺議員」。

「小野寺議員」

はい。議長。

あの前段でも、答弁の中で課長の方からありました、今、確かに都市計画マスタープラン、それからこれからの総合計画の中でという部分。都市計画マスタープランのアンケート、ちょっと担当課の方から頂いて見ました。それにもあります。それからこれからの部分も当然それは検討課題という町民の側の方の検討課題としては浮き彫りになるようなアンケートをして頂けるかどうかというのものもあるかもしれませんが、まず、それは答弁としてわかりました。

それを、踏まえれば、今の副町長の通り、今すぐどうのこうのとやり取りはなかなかこれからの総合計画の調査、アンケート等を考えた場合には、難しいかなと私も理解します。

それで、では分かりました。しっかりと、まずはアンケート等で調べてもらいたいと、私の質問でいうと実態調査ですね、をしてもらいたいという問題ですが。

もう1つ再再質問で、最後ですので。この買いの難民、先程、副町長、買いの難民なかなか言いました。国の調査でもそうです、定義って無いんですよ、実は。法律でも、別にこのことについての、打ち出ししていませんから、先程言った総務省だとか、国土交通省言っているのは、いわゆるですよ。ですから、色々取り上げた中で、定義というの変わってきていますから、違ってきますから、それはなかなか難しい。いわば簡単に言うと、とにかく買い物行くのに大変困っているという部分の実態を調べなきゃならないですが。

それで、ちょっと突然ですが、健康推進課長。あの私ね、買いの難民いわゆる買いの難民の問題は、本当に全町的な問題だと思いますし、是非健康推進課長にも、その部分で色々今後の江差町の計画の中に積極的な位置付けをしてもらいたいなという意味で、お聞きしたいと思うんですが。出かけることが健康づくりといえますか、自分の例

えば、引きこもりだとか、ですね。なると、やはりどんどん体が弱くなっていくということで、とにかく買いものだろうと、イベントだろうと、とにかく積極的に外に出るといふ部分で、たぶん聞いたことがあると思いますが、函館の方でお出かけリハビリとかですね、出かけること自体、色々民間サイドでお出かけリハビリ推進協議会とか。本当に函館でとにかく外に出るのが、買いものするのが、食事するのが、イベントにするのが、イベントに出かけるのが、健康づくりになる。それで、行政も色々入って、その施策を作っていると、検討しているという部分があるんです。是非、この買いもの難民対策の中に、引きこもりだとか、結果的には地域の中から外に出られないっていう部分を、少しでも地域に出る、買いものをする、イベントに連れ出す、それが健康推進にも繋がっていく、そういう観点も私ね絶対必要だと思うんですが、その点について、ちょっと課長、もし見解あればお聞きしたいと思います。

(議長)

はい、「健康推進課長」。

「健康推進課長」

小野寺議員の方から、外に出かけることが、健康に繋がるということでの意見でございました。

函館の朝市等々にお買いものに行くという、そういう何て言うんですかね、支援のことの関しましては私も新聞等々で把握しております。確かに、引きこもりも、高齢者に限らず、色々な年齢層でおりますので、その方達を全て考えていくことが一番理想的なのだろうなという風に思いますが、まず1番目のとっかかりとしては、恐らく高齢者の何か出かけることに対して、少し困りごとがあるなというところをどうやって考えるかということなのかなと、いう風に私は思っております。

先程、小梅議員の質問からもあったように、地域のサロンで、に出かけることで、非常に元気になると。まちカフェのまちづくりカフェの中でもそういう困りごとを、どのように解決、自分たちでどのように解決出来るかという、互助の力を付けるための話し合いを進めております。その中で、行政として何が出来るのかというのは、これから少し考えていかなきゃいけないことじゃないかなという風には思っております。

(議長)

いいですね。

「小野寺議員」

はい、ありがとうございます。

(議長)

はい。これで、小野寺、質問の一般質問を終了致します。